

# 山口洋

ライブ  
アコースティック  
デュオ

## Don't Look Back コンサート

NAGAITOURISM PROJECT  
HIROSHI YAMAGUCHI SPECIALCONCERT IN SHIRATAKA

2022

# 11/20日



### 山口洋 (HEATWAVE)

1979年、福岡にて「HEATWAVE」を結成。ヴォーカル、ギター。ほぼ全曲の作詞、作曲を担当。アルバム14枚、ミニアルバム3枚、ベスト盤1タイトル、セルフカバーアルバム1タイトル、BOXセット3タイトル、ライブ盤7枚を発表。1995年発表のアルバム「1995」には阪神・淡路大震災後に作られた「満月の夕」が収録され、多くのミュージシャン、幅広い世代に現在も歌い継がれている。東日本大震災以降、福島県相馬市を支援するプロジェクトMY LIFE IS MY MESSAGEを立ち上げ、現在も活動を継続中。

### 会場

山形県白鷹町文化交流センター  
**AYu:M** (あゆーむ)

所在地：  
山形県西置賜郡白鷹町  
大字船貝7331番地

会場への  
アクセスは  
こちら



開場 午後1:30 開演 午後2:00

※終了予定時間：午後4:00

※当日は前売りチケットまたは当日チケット、オンラインチケットを受付にてお見せください。  
※開演後、会場の外へ出る場合は、再度受付にチケットをお見せください。  
※当日、小さいお子様(3歳未満)の入場はご遠慮ください。

※当日、駐車場は準備しますが停車台数に限りがございますので  
乗り合わせまたは公共機関のご利用をおすすめします。

※当日、会場でも体温測定や体調問診はおこないますが来場される際は、  
事前に体温測定をお願いし体調不良の方の入場はご遠慮ください。

入場料 チケット制(税込)

対象：幼児(幼稚園)から大人まで

前売り

全席自由

4,000円

当日

全席自由

4,500円

オンライン決済

(クレジットカードのみ)

※チケットを当日お渡しします。

※当日購入者確認がございます。



### チケット取扱

当日券の際は  
会場スタッフまで

道の駅「川のみなと長井」観光案内所(やまがたアルカディア観光局 | 0238-88-1831)

音楽アズム館(0238-84-3111) 七色学舎(090-3645-6745) 葉っぱ塾(090-5230-8819)

Ayu:M(あゆーむ | 0238-85-9071)

- 主催：山口洋コンサート実行委員会(公演事務局)
- 後援：鈴木酒造店長井蔵、中央会館、葉っぱ塾
- 協賛：長井グリーンツーリズムネットワーク

公演当日は、スタッフ一同感染症拡大防止に  
徹底・行動し、来場されるお客様に安心して  
コンサートをお楽しみいただけるよう運営します。



申し込み・お問い合わせ | 公演事務局 090-3645-6745 (七色学舎 | 村田孝まで) hopi1809@xa2.so-net.ne.jp

拝啓 山口 洋様

少し前のことになりますが、ヴァン・モリソンの音楽が素晴らしい映画『ベルファスト』(2021年 アイルランド・イギリス ケネス・ブラナー監督)を見て、ぼくはあなたの事を考えていました。映画のエンドロールにはこうあります。「この地を去った人、残った人、亡くなった人、その全ての人に捧げる」と。名曲『満月の夕』の縁で、きっとあなたは日本中のいろんな場所でこのような思いを抱いた人たちと沢山出逢ったのだろうと想像します。そして、あなたと出会ったそれらの人たちの心の中で、あなたの音楽はきっと「魂のサウンドトラック」として流れているのだろうと思います。

27年前。友人だった音楽評論家からある一つの歌を二つのバージョンで聞かされました。それが『満月の夕』なのですが、一つは中川敬さんが率いるソウルフラワーユニオンが歌うもので、もう一つはあなたが率いるHEATWAVEによるものでした。1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災に際してお二人が共作したこの歌を、自分は当時、ソウルフラワーユニオンのバージョンを現地からの生々しいレポートのように、そしてHEATWAVEのバージョンをある種の無力感と、そこからなんとか希望の方々に寄り寄りとする人々の祈りのように聞いたのを覚えています。あれから日本は災害大国になり、多くの被災者が出ましたが、それと同時にテレビの前で無力感に打ちひしがれる人の多くがサイレントマジョリティーの一部となりました。かく言うぼくもその一人かもしれず、だからぼくの中で『満月の夕』はずっとHEATWAVEのバージョンの方なのです。

あなたがれっきとした九州男児であるにもかかわらず、ぼくはある時まであなたを「北の人」と思っていました。これには理由はありません。ただあなたが書く数々の歌の風景が、自分の中で北国のそれと勝手に合致してしまっただけなのです。だから山形県の白鷹町であなたが歌うと聞いた時、なんだか空いたままのパズルのピースがようやく収まるようなそんな印象を受けました。白鷹やその周辺の地域は東日本大震災とそれに伴う原発事故による避難者たちを柔らかく受け入れ、励ました人たちが住む場所です。そしてコロナウィルスのことがあって以降、「被災」はミニマルな形で誰の日常にも侵入してくるようになり、今やかの町の人たちも無傷ではないかもしれません。だから遠い未来に彼らの日々の奮闘がもし映画になるようなことがあれば、その時全編に流れるのはあなたの歌だと夢想します。映画『ベルファスト』でのヴァン・モリソンの歌のように。

PS『満月の夕』のことばかり書きましたが、ぼくがあなたの書いた歌で一番好きなのは『オリオンへの道』です。“汗を流し、腹を空かし、何度でも僕はやり直す”。汗を流した後の酒は美味しい、腹が空いたときに食う飯は美味しい。酒が美味しい場所は水が良くて、水が良い場所は人が良いと、昔、誰かが言っていました。

11月の白鷹は冬支度が始まるころで蕎麦が美味いそうです。そして星がきれい、晴れていればどの道を行っても朝の景色はきっと人が再生する瞬間(とき)を歌った『オリオンへの道』の歌詞さながらでしょう。楽しみです。

PSのPS 春に頂いたピック、大事にしています。

村田 博(東京都日野市在住)